

# 西村俊昭 自己紹介

- 農業工学を学び、H1-H20の20年建設コンサルタントで、農業農村振興、農業農村整備、都市計画、地域活性化、バイオマス利活用、自然エネルギー、環境保全などの調査計画に携わる。
- 2008年(H20)農村移住して地域密着型のコンサルタント 株式会社農楽(NOUGAK)を起業。
- 同時に様々地域活動を開始。
- 持続可能な農村づくりをめざし、農村計画をベースに、食、エネルギー・環境、ケアの自給圏づくりや地域づくりを支援・実践する。

# 所属

- 株式会社 農楽 代表取締役 (2008.7-)
- 公益財団法人 ひがしおうみ三方よし基金 理事 (2017.6-)
- 認定NPO法人 まちづくりネット東近江 理事 (2020.4-)
- 特定非営利活動法人 バイオマス利活用推進会議 理事長 (2010.4-)
- 特定非営利活動法人 甲賀のんべえ倶楽部 理事 (2010.6-) 一からの酒づくり
- 特定非営利活動法人 AJA 監事 (2011.4-) 農による就労継続支援B型作業所
- 一般社団法人 TeamNorishiro 理事 (2020.4-) TEAM CHAKKA 代表 (ひと・もの・お金をまわすしくみづくりによる働きたいを応援) (2014.4-2020.3-) 法人化して
- 株式会社 BASYO 代表取締役(2021.5-)
- 一般社団法人 がもう夢工 理事 (2017.6-2021.3)
- 東近江市民共同発電所2号機組合 事務局長 (2009-)
- 大原自治振興会 運営委員 (2015.10-)

# 一般社団法人 TeamNorishiro

## VISION

## ビジョン

生きづらさを抱える人は課題でなく、地域の資源(宝もん)と捉え、地域に根差した働く場や集う場を創造することによって、地域のノリシロを大きくして、人口急減・超高齢化する地域社会を変革します。

## MISSION

## ミッション

年齢、経済条件、制度などに関係なく、生きづらさを抱える人すべてを対象に、地域に根差した働く場や集う場を企画・運営して、命を守り、地域で働き暮らしていく力をオーダーメイドで育みます。また彼ら彼女らの応援団を増やします。

## QUESTION

## ノリシロって？

### ① Norishiro(ノリシロ)ってどういう意味ですか？

「糊代」とは、紙を貼り合わせるために重ねる部分のコト。

「Norishiro(ノリシロ)」とは、人と人。現場と現場。時間と時間。などが、いつでも近くにあって、いつでも重ねられる存在。地域の中で、この重ねられる存在が点在するほど、地域之力(許す・認める・握り合う)が太ります。また、Norishiro(ノリシロ)とは、これから重なる人や場所も意味します。

### ② どんな活動をしていますか？

私たちは、働く経験が少ない若者を地域の人財と捉え、地域の未利用資源を活用した継続的な働く場や集う場を提供しています。地域の中に所属を持ち、色んな経験ができる時間の保証を通して、自分らしい働き方を見つけてもらうことに取り組んでいます。また、これらの活動を通して若者たちの応援団を増やしています。

### ③ どんな若者を応援していますか？

学校生活が合わなかった、働く機会に出会えなかった等、何かうまく行かなさを持つ若者たち。この地域で生きることの大事さを「働くこと」を通して応援しています。私たちは、そんな彼らを、愛を持って「働きもん」と呼んでいます。

# 働きもんの応援団

働き・暮らし応援センター“Tekito-”  
「働く」と「暮らす」を一体的にサポート



卒業

Team Norishiro  
薪・着火材づくりによる  
主に卒業を前提する  
定期的な働く場の創出

退職

BASYO  
砂栽培による  
卒業を前提としない  
定期的な働く場の創出

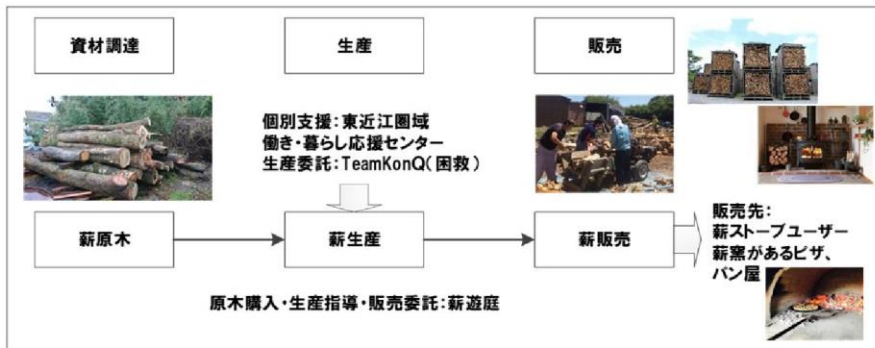
Team KonQ (困救)  
草刈り・農作業など  
地域の困りごとで  
不定期な働く場の創出

支援センター太陽  
精神障害を持つ方の「暮らす」サポート

# 薪プロジェクト

## 概要

薪プロジェクトは、かつて薪炭林として利用されていたナラ等の雑木を薪にして、薪ストーブ等の燃料として活用して、自然エネルギー利用促進と里山保全を目指しています。



Team Norishiro  
薪の資材調達、生産、販売の全体マネージメント  
販路拡大などプロモートなどの薪事業の企画・運営



## 2020年度活動実績

薪割 毎週水・金曜日 8:30~16:30 84日開所  
参加人数 6名 延べ297名(平均3.5人/日)  
地域企業・福祉事業所に卒業 1名  
地域企業への見学・実習 1名  
他の事業へのステップアップ 2名



推進体制▶

## パンフレット(2020年度版)

薪と薪ストーブと、  
森の暮らし。

# 薪遊庭

makiyutei

TEL/FAX  
0749-31-3064

MAIL  
makiyutei@gmail.com

OPEN  
08:30 - 17:00 (火曜日定休)

ADDRESS  
〒527-0172  
滋賀県東近江市鶴江町西小松 1443

※ 現場に出ている留守の場合がございます。  
お越しの際は前もってご連絡ください。

www.makiyutei.com

憧れや夢には、不安がつきもの。

「家にストーブは置けるのかな?」「どんな準備が必要なの?」そんな悩みをすべてお聞かせください。薪遊庭は、あなたの森の暮らしをサポートします。

03 | 煙突掃除・ストーブメンテナンス

安全にストーブをお使いいただくために定期的なメンテナンスをおすすめします。ストーブのアフターケアもおまかせください。

04 | 支障木や危険木などの木の伐採

支障木や危険木など、切り倒しが難しい樹木の伐採を承っています。1本からでも、まずはご相談ください。

01 | 薪ストーブの販売と設置工事

薪ストーブのめくもりは、森の恵みのおすそわけ。ゆらめく炎は心を落ち着かせてくれます。薪遊庭では、薪ストーブの販売および煙突設置工事を行っています。国内・国外産のさまざまなストーブの中から、あなたのお気に入りの1台を見つけてください。

02 | 働きもんが作る薪の製造と販売

薪遊庭では、“働きもん”と一緒に薪の生産を行っています。彼らは、自分らしい働き方を追求する中で、地域との関わりを誇りとしている若者たち。コナラなどの地元産広葉樹を割って、天日乾燥で仕上げられています。時間と手間をしっかりとかけた、上質な燃えやすい薪です。

05 | 森の暮らしに関するあれこれ

- ・斧・薪割り機・チェーンソーの販売
- ・薪ストーブアクセサリー販売
- ・ツリーイング用品販売
- ・薪割り体験

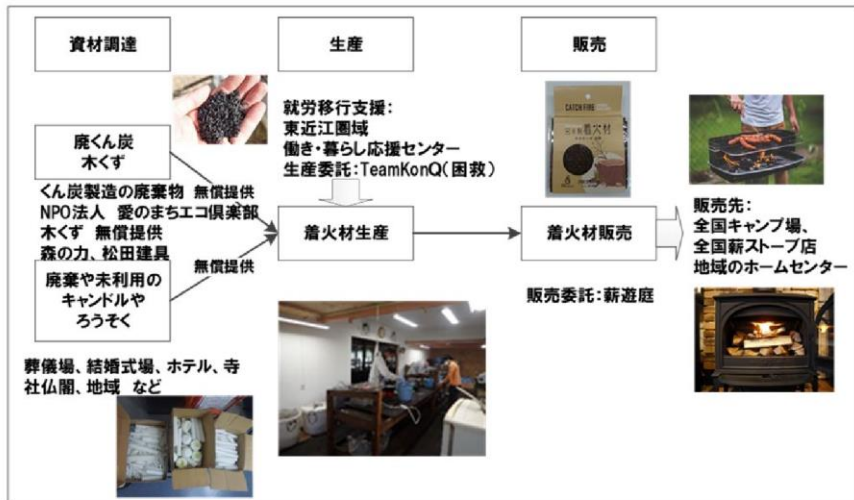
薪遊庭

薪と薪ストーブと、森の暮らし。

# 着火プロジェクト

## 概要

着火プロジェクトは、利用用途のない廃くん炭(米のもみ殻を炭化したもの)や木くずと、使用済のろうそくやキャンドルを、バーベキュー・たき火や薪ストーブなどの火付けに使用する着火材として活用して、未利用資源のリサイクルを促進します。



Team Norishiro  
着火材の資材調達、生産、販売の全体マネジメント  
販路拡大などプロモートなどの着火材事業の企画・運営



## 2020年度活動実績

着火材生産 毎週月・木曜日 9:00~12:00 85日開所  
参加人数 7名 延べ371名(平均4.4人/日)

着火材袋・箱詰め 毎週水・金曜日 9:00~12:00 77日開所  
参加人数 15名 延べ206名(平均2.7人/日)

地域企業・福祉事業所に卒業 8名  
地域企業への見学・実習 5名  
他の事業へのステップアップ 3名

## ■パンフレット(2020年度版)

炎も人生も、くすぶってなんかいられへん。

働きもんの着火材「CATCH FIRE」は、道産のもみ殻・木材・ろうそくの廃材を使って製造した着火材です。働くことに喜びを感じた「働きもん」の想いがつまっています。

**もみ殻くん炭の着火材**  
CKS-060 1シート9ブロック / CKB-600 BOX 10シート  
CKB-60012 BOX 12箱パック 120シート

**国産木くずの着火材**  
CKS-W090 5本 / CKB-W900 BOX 50本  
CKB-W90012 BOX 12箱パック 600本

BBQ バーベキュー WOOD STOVE 薪ストーブ PELLET STOVE ペレットストーブ BONFIRE 焚火

01 PHILOSOPHY  
着火材を通して結ぶ、みなさんとのつながり。  
働きもんの着火材にはドラマがあります。つくり手である「働きもん」が着火材をつくる働きによって、人生が変わった物語を皆さんに知ってほしい。日に見えない価値を演じて「働きもん」とみなさんがつながってほしい。

02 ECO  
こだわりの素材 エコサイクルの商品。  
製品に使用している木くずや炭は、地域の色んな方々が「働きもん」の応援団となって材料を準備してください。  
こだわりの素材から、究極のエコサイクルで成り立っています。

03 SAFETY  
飛び散ることなく安心して使える着火材。  
飛び散らず、急激に燃え上がりません。揮発成分を含んでいないので、手も汚れにくい。家庭用からアウトドアまで、様々な用途にお使いいただけます。

チームチャッカ TEAM CHAKKA  
〒527-0172 滋賀県東近江市鈴江町 1443 番地 薪遊庭内チームチャッカ (一社) Team Norishiro  
TEL/FAX 0749-31-3064 E-MAIL teamchakka.norishiro@gmail.com

## 新型コロナウイルスの感染拡大の影響

- **定年後の受け皿づくり**：企業の雇用調整による定年の加速化
- **8050問題の顕在化**：外出自粛が続く中、親の健康に深刻な影響が出て、家族の分離が急務
- **セーフティネット**：企業の雇用調整による休職、退職の加速化



孤立を抱える人の働き集える場が、地域に必要

## コロナ禍による 孤立の拡大

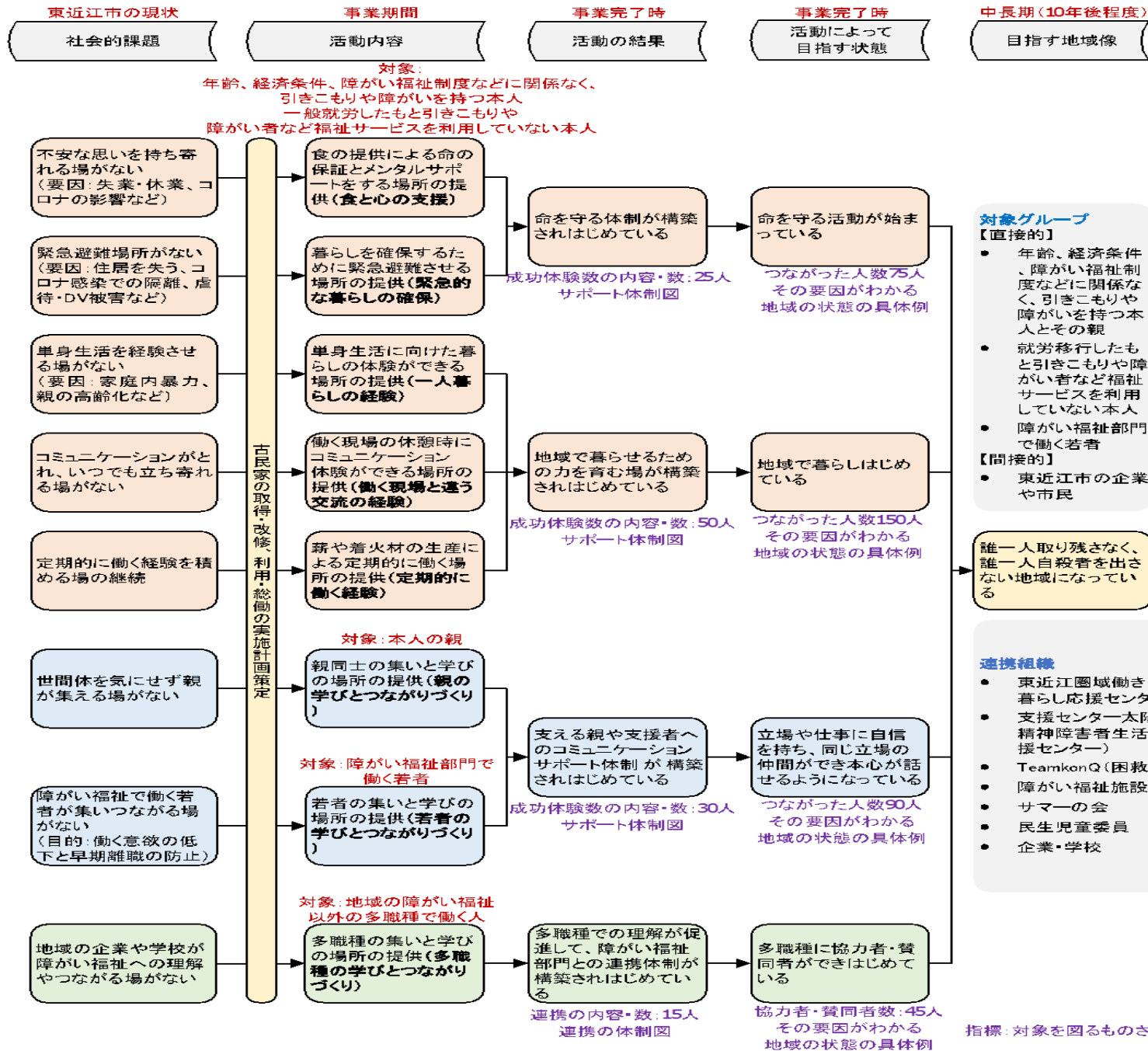


空いた時間  
どうし  
ようか

定年後  
どうし  
ようか

50歳にな  
るまで家  
事や働い  
たことが  
ない

「空き家を活用して命を守りつなぐ場づくり(一般社団法人TeamNorishiro)」 事業計画概要図



指標:対象を囲むものさし



# 「働く」を通じた支援を強化し、働く場所の共創による「つながり」の創出へ

東近江圏域働き・暮らし応援センターTekito-  
「働く」ことと「暮らす」ことを一体的にサポート

## Team Norishiro

定期的な働く場所の提供  
地域の未利用資源を活用した薪割り、着火材づくり



## Team konQ (困救)

不定期的な働く場所の提供、  
高齢化や人口減少で、  
地域で抱えきれなくなった  
草刈や農業作業など支援



## 支援センター太陽

主に精神の障害をお持ちの方の相談支援



龍谷大学  
YSBRC/政策学部/農学部/社会学部  
共同研究、ソーシャルビジネス支援



NTT西日本  
ICT技術・通信インフラ協力

## 設立の背景

- ・ 地域における孤立→依存問題
- ・ 福祉制度下での農業事業の限界
- ・ 安価な農業下請け作業
- ・ 地域の産業基盤の弱体化
- ・ 誰もが抱える「働きづらさ」

## 株式会社BASYO

## 目的

- ・ 孤立の解消→つながりの創出
- ・ 既存福祉制度からの脱却
- ・ 農業法人としての事業運営
- ・ 高付加価値農業の実践
- ・ 地域の未利用資源の活用
- ・ 多様な就労の場の提供

中間的  
就労

# 地域の遊休農地・施設を活用して 高齢者・障害者、環境にやさしく、高収益な砂栽培事業

## 砂栽培の特徴

- **地域課題の解決**：遊休施設や農地の解消、新たな担い手の創出
- **だれでも簡単**：機械が不必要、高齢者にやさしい
- **多様で簡単な手間ごと**：播種、育苗、定植、収穫、出荷調整
- **年間を通して一定のしごと量**：ハウス栽培で環境制御
- **環境配慮**：節水、農薬不要
- **高収益**：機械経費不要、液肥で高品質、例えばリーフレタス年6回転で4,410kg/10a収穫、400円/kgで1,700万円売上、投資回収7年モデル
- **販路の確保**：東近江市地域商社あぐりステーション、近隣道の駅マーガレット種ステーション、龍谷大学



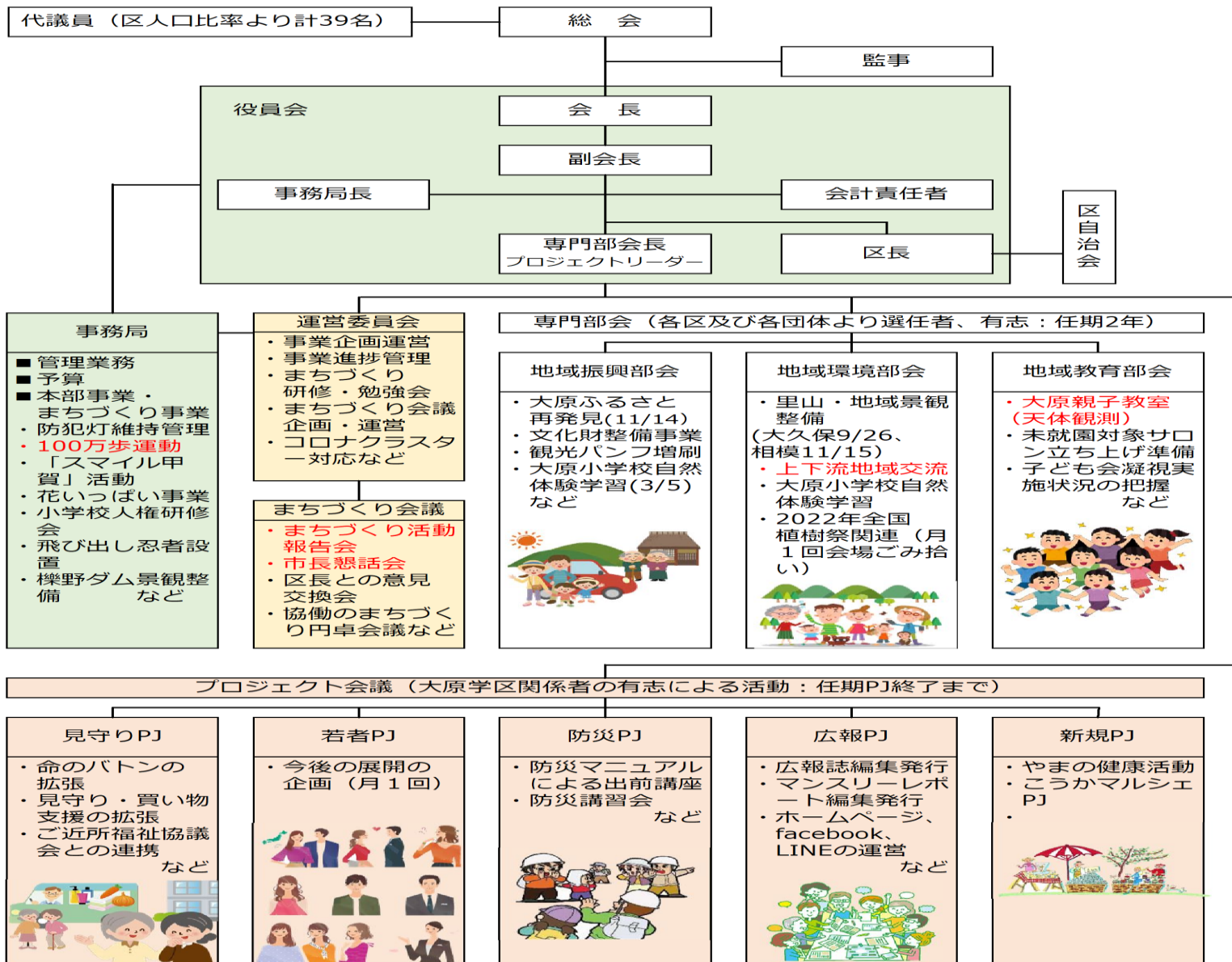
### 砂栽培のイメージ

### ビニールハウス

こんなにあるの！？  
砂栽培のメリット

- 土作りが不要
- 肥料管理が簡単
- 病気に強い
- 連作が可能
- 復旧が早い
- 高い耕作機が不要
- 維持費が安い
- 腰をかかめなくて良い
- 生産物の品質が高い
- 土地を選ばない
- 災害に強い
- ハウスで虫が来ない
- 誰にでもできる
- 天候に関係ない
- 生活に合わせやすい

# 大原自治振興会(2011年設立)4889人1637戸

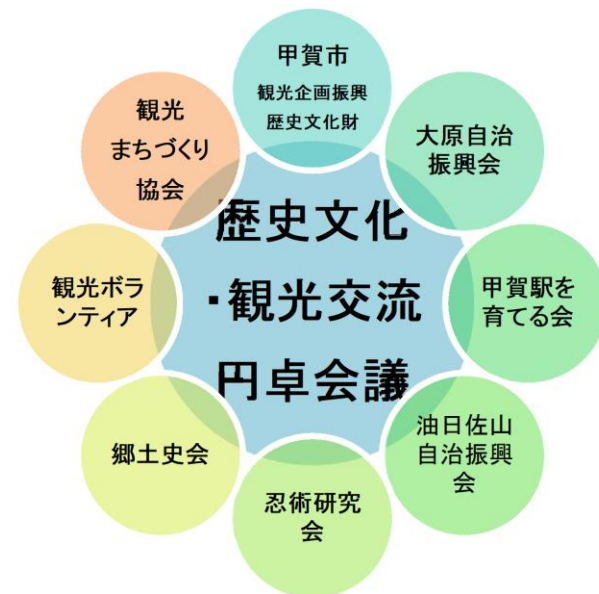
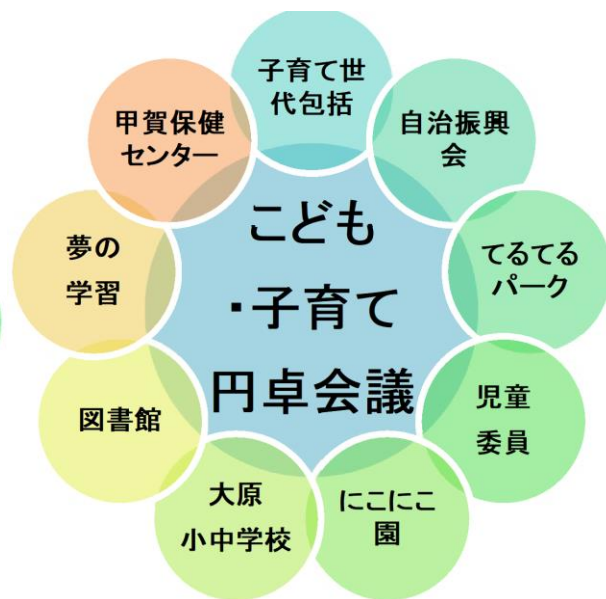
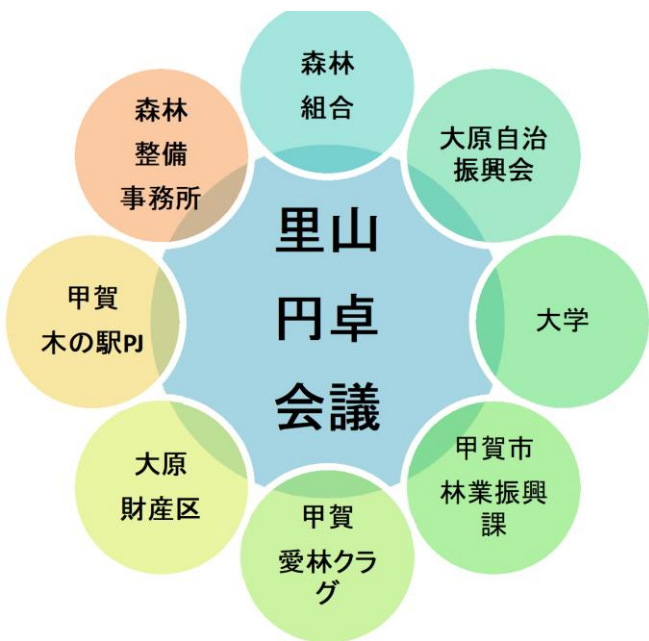
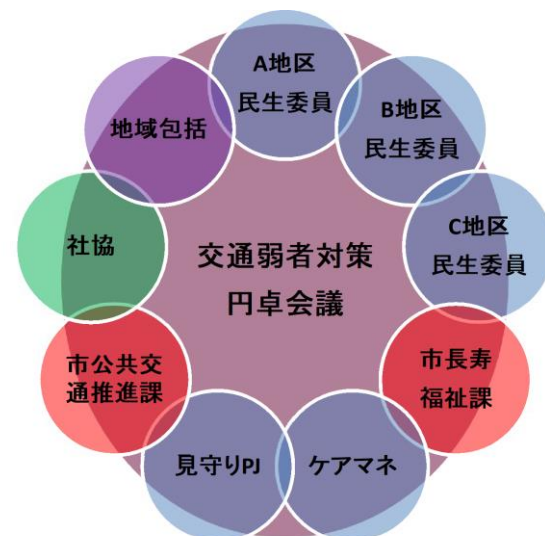
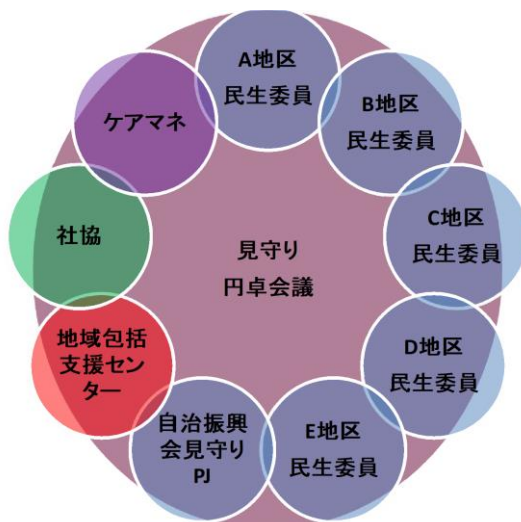


運営委員会：会長、副会長、相談役、事務局長および会長推薦によるメンバーで構成

まちづくり会議：自治振興会メンバー、大原の10区自治会、大原の各種団体、甲賀市、その他関係団体・事業所・個人事業者、関係県市議員

赤字：コロナウイルス感染防止対策のため中止

# 協働まちづくり円卓会議



# 2020年9月広報

## 偏見や差別でなく優しさが広がるように！

学区内で7月22日に発生した新型コロナウイルス集団感染を受けて、24日緊急運営委員会をWEBで行い、新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の防止啓発ポスターを作成しました。

27日には行政・市民・事業者が連携して、学区内の公共施設、各区自治会関連の施設、甲質駅、商業施設（ジョイショッピングセンター、ファミリーマート、セブンイレブン）などにこのポスターを貼りました。

明日、自分が感染していないと自信を持って言える人は一人もいません。感染者になっても、地域住民が口を揃えて「一日でも早く完治するといね！」と心強い励ましを送ってくれるのであれば、安心できますよね。無知から生じる誤解や、変な噂が広まり、自分の家族や友人までを傷つけるような事態だけは避けたい。だからこそ互いを思い合う空気を地域で創って行きたいと思えます。

恐れるべきはウイルス、人ではありません。正確な情報に基づき冷静に行動し、差別的な発言等に同調しないように、みんなで助け合い、支えあって、この危機を乗り越えましょう。

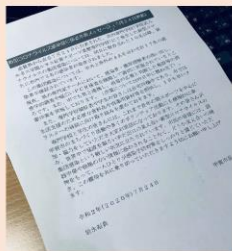


## 区自治会に加入していない約340世帯への緊急市長メッセージ配布

7月23日から26日の連休明け27日に、区自治会に加入していない世帯約340戸に、24日の市長メッセージをポストインしました。

区自治会に加入している方には、甲質市から区自治会長経由で、22日・24日の市長メッセージが回覧又は各戸配布されました。しかし、区自治会に加入していない世帯には情報発信できていない現状を見てのアクションです。

自治振興会の広報誌を6月号から区自治会に加入していない世帯約340戸にポストインを開始したしくみがこで役にたちました。



## 優しさの差し入れ

寮で待機している学生に8月2日の朝食と昼食の40人分を差し入れしました。

これは、集団感染の発生を受けて、学生はすべて自宅待機となっており、甲質市は連携協定等を活用しながら、寮生や一人暮らしの学生への生活支援（食材や日用品等の配布）を行っています。今回は自治振興会から学校長に「困りごとで地域において対応できることがあれば」と声掛け、寮の食事を担当する方の休みを確保するために支援要請があり、行ったアクションでした。

「コロナにかつて」と願をこめて地元店とコラボしてお昼は「とんかつ弁当」の差し入れ。

弁当を受け取った学校長からは「地元からの支援は本当にうれしい。ありがとございませした。」との感謝の言葉を頂きました。

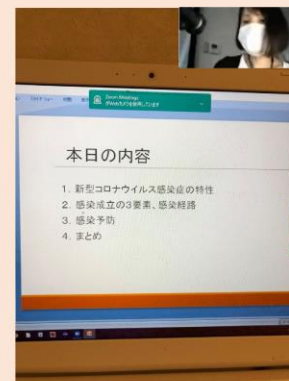


## 勉強会「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」

7月7日に第10回大原まちづくり勉強会を「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」というテーマで開催しました。今回は三密を避けるために、大原自治振興会の会議室を参加者の自宅等とzoomで繋いでのオンライン開催となりました。

「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」の講義を保健師の釜谷さんと宿里さんにいただいたあとの質疑応答の時間では、質問や意見が活発に飛び交いました。「若い世代や子供たちに感染リスクを理解させるにはどうしたらいいか」「サロンやイベントを行う際にはどのような注意を払えばいいか」「乳幼児を持つ親として、子供の感染予防をどのようにすればいいか」などとそれぞれの生活形態や活動に即した質問が出ました。コロナ禍の中で、何に気をつけて生活し、まちづくりに関わっていけばいいの、とても勉強になりました。

第10回大原まちづくり勉強会「新型コロナウイルスの理解と感染予防策について」は、大原自治振興会ホームページ、講義の内容はYouTube大原自治振興会チャンネルよりご覧いただけます。



## 納涼祭、敬老会、高齢者サロンなどを開催するか判断に苦慮

6月5日に「区長との意見交換会」を開催しました。年度当初に区長さんに自治振興会のことを知ってもらうための会で、4月開催予定がずれ込みとなりました。

今回のトピックは、WITHコロナで自治活動を再開するために、自治振興会で作成したガイドラインと事業や会議をする際のチェックシートのリリース。

どの区長さんも、納涼祭、敬老会、高齢者サロンなどを開催するか判断に苦慮されており、各区の検討状況について情報交換したかったようで大いに盛り上がりしました。多数による飲食を伴う事業は開催が難しく。また、ハイリスクなお年寄りの参加人数が多いため三密の回避が困難だという声が聞かれました。今年だけのことでなく、区自治会活動の内容を見直すよい機会かもと感じました。



## WITHコロナにおける事業等の実施に係るガイドライン、チェックシート

甲質市「事業等の実施および市施設の貸借等に係るガイドライン（改定版）（令和2年6月1日改定）」に準拠して、大原自治振興会の事業等の実施に係るガイドラインとチェックシートを作成しました。

ガイドラインには1)新型コロナウイルスの集団発生につながる3つの条件、2)実施要件、3)会議室の人数制限、4)参加者の要件（案内文に記載する事項）、5)参加者の準備品、6)参加者の心得、7)事業等開催時に事務局がすべきこと、8)参加要件および対策に関する周知を記載しています。チェックシートは、事業を行う際の申請時、案内文、受付時、実施中、終了時の守るべき点検項目を整理しています。

「WITHコロナにおける大原自治振興会の事業等の実施に係るガイドライン、チェックシート」は大原自治振興会ホームページ、その他資料よりダウンロードできます。

- 区民様**
- 出席の測定などに依る出席を確認し、具合の悪い方は不参加を断ってください。（事務局で検閲予定を掲載します。）
  - 参加者は着席用アルコール等により手洗いの徹底してください。（事務局で消毒剤を用意します。）
  - 参加者は、マスクの着用をお願いします。
  - なお、マスクを着用しない場合、2階ホールに移動していただく。今後は、例年以上に水分補給を促す予定です。参加者全員に生活していただく。例えば、活動量の多い運動や作業をする場合には、対人距離を十分に確保し、陣内の場合には換気を十分に行う等、必ずしもマスクを着用しなくても感染リスクを十分に抑えられるようにしてください。
  - 参加者全員（子供や高齢者等）を作成していただき、感染者が発生した場合に濃厚接触者の確認をする必要があらわれます。
- 職員様**
- 区民への対応の留意事項を併記しお断りください。
  - 期限内の差し入れについては、当日2回以上を目安に施設内の換気を行ってください。
  - 特定多数および特定多数が手で触れる箇所・物品は必要最小限とするようにし、使った後や使用後は参加者各自の手洗いを促してください。
  - 子どもの配布物は、消毒できるビニール袋（或はビニール）の袋に密封していただく。
  - 作業の準備は、開催される前日までに完了を要請しております。
  - 飲食が伴う行事については、多人気は避け、（日）開催ではなく（曜）で開催する。（2）実施中は特に集中し、会話は控えてください。

## 大原自治振興会会長

おおはら ひさかず  
大原 久和さん

自分たちの地域で感染の情報を聞いた際は「ついに来たか!」という思いでした。

自治振興会は地域課題の解決を自主的に推進する組織であり、何ができるのかと必然的に検討しました。そして、

- ①地域全世帯への市長メッセージの配布
- ②偏見や差別をなくすためのポスターの作成
- ③感染した施設への協力

という3つの取り組みを決定しました。

人口減少と高齢化に伴う独居世帯の拡大が進む中、個人に対する思いやり、地域での支えあい「利他の心」が大切だと考えます。今回の活動だけに限らず、防災や福祉の活動もより充実させていきたいと考えています。

昔からの「お互い様!」の言葉が飛び交う地域であり続けたいです。



▲独目に作成された偏見や差別をなくすためのポスター

地域で新型コロナウイルスに向き合い、解決に尽力された大原自治振興会にお話をお聞きしました。

## 大原自治振興会の取り組み

みんなで考える  
「支え合い・思いやり」

# 2020.3非常事態宣言後、検討、開始しはじめたこと

WEBを活用した会議、意見交換

市の情報の発信

区自治会入りしていない地域住民の情報発信

チェックシート（申請時、案内文、受付時、実施中、終了後）

# 非常時の取組のまとめ

いまできることを考える

LINEやZOOMを活用した非対面の対話手段の確保

スピード

行政など様々関係団体との協働

FB、広報、LINE@などの情報発信



# まちづくり勉強会（第1火曜日19:30-21:00）ZOOM

7月：新型コロナウイルスの理解と感染予防策について

8月：甲賀市における自治振興会のこれから

9月：甲賀市における空き家対策について

10月：自治会内で新型コロナ感染者や濃厚接触者がでたらどうするか？

11月：元気な今だからこそ考えよう「エンディングノート」

12月：多文化共生のまちづくり

1月：ゲートキーパー

2月：区自治会入りしていない世帯のごみ回収について

3月：`健康寿命、ならぬ `安全寿命、の延伸を

4月：自治振興交付金の手引きについて

6月：甲賀ご近所福祉推進協議会2020年度活動報告について

7月：人材の育成・確保について

8月：組織内・地域内での情報共有について

9月：甲賀・湖南ひきこもり支援について

10月：甲賀忍者と大原について

11月：日常生活自立支援について